

飯塚市立小中一貫校飯塚鎮西校 中学部通信

令和 7 年 9 月 11 日 (木)
第 1 号

飯塚市立小中一貫校飯塚鎮西校
中学部・校長 秦 俊 明
学習について

物事に対する認知を変容させる重要な契機の一つは、「うまくできた」という成功体験と喜びを本人が実感することです。また、成功体験が認知変容の契機として生かされるためには、「自ら為す」ことが重要な条件と考えられています。そのため、本校では、授業づくりを生徒への自発を促しながら成功体験を経験しやすい学習過程をめざしています。具体的には、

- ① 日常生活と結びついた場面設定、自己決定がある授業づくり【課題設定の場の工夫】
- ② 意見交流の目的と手順を明確にした授業づくり【意見交流の場の工夫】
- ③ 授業前後で考えの変容が見える授業づくり【考えを再考する場の工夫】

を考えて、福岡教育大学教職大学院坂井清隆教授の指導を仰ぎながら取り組んでいます。
表 1、資料 1～3 は、小中教職員合同研修で確認した内容です。

飯塚鎮西中 標準化得点 経年変化					
表 1		国語	数学	理科	英語
R7					
R6					
R5					
R4					
標準化得点 (本校の平均正答数) ÷ (県の平均正答数) × 100					

資料 1 国語科の分析

【2 学期からの授業改善に向けて】

「**自分の考えを根拠立てて書く力**」を身に付けさせる。

- 自分の意見や考えを要約して書く活動
- 提案や企画など、相手や目的を明確にして自分の考えを簡潔にまとめて書く学習など



今回の企画は、対象が～だから、このような目的で行うといいはず。

この問題に対する自分の考えは・・・
自分の意見をまとめると・・・



資料 2 数学科の分析

【2 学期からの授業改善に向けて】

「**数学的活動の充実**」を図った授業の実践。

- 「図形」 → 図形の性質などを根拠を明らかにして筋道を立て説明する活動など。
- 「関数」 → 身の回りで起こることを関数としてとらえ、表、式、グラフなどを用いて変化や対応の様子を調べてその特徴を説明する活動 など

- ☞ 生徒のつまずきに対応し、時間をかけてきめ細かな指導を行う。
- ☞ 一度学習した内容を再度学習できるようにするなど学び直しの機会を設定する。

資料 3 小中一貫して、つけていきたい力

単元ごとの基礎的・基本的な概念を理解する力

問われている設問が、答えとして何を求めているのかを正しく理解する力

資料やデータ、説明文などの文章から、必要・適切な情報を読み取る力

令和 7 年度全国学力・学習状況調査 (9 年生対象)

生徒質問紙から、当てはまる、どちらかといえ、当てはまるの割合が多かった項目として、自分にはよいところがある。(本校 88.7、県 86.6、全国 86.2)、先生は、あなたのよいところを褒めてくれていると思う。(本校 97.7、県 91.8、全国 92.2) 困りごとや不安がある時、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。(本校 82.0、県 73.6、全国 73.2)、人の役に立つ人間になりたい。(本校、98.9、県 96.9、全国 96.6) 友達関係に満足している。(本校 94.4、県 91.8、全国 91.4)、普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。(本校 96.6、県 91.7、全国 91.6) 等がありました。

御家庭での過ごし方のご指導・ご協力もよろしくお願いいたします。

学力向上のための授業づくり

第 2 回校内提案授業

9 月 10 日 (水)、宮野亜乃美教諭が 8 年 1 組で全職員に対して、保健・体育「バスケットボール」の提案授業を行いました。事後研修会では、全職員で授業のよさや課題を出し合い、活発に交流しました。また、福岡教育大学教職大学院坂井清隆教授からの授業の指導・助言をいただきました。